

令和五年度

水について考える

第四十五回 「全日本中学生水の作文コンクール」 茨城県優秀作品集

茨城県

第四十五回 茨城県優秀作品（令和五年度）

【最優秀賞】

祖父のマンションと水

土浦日本大学中等教育学校

二年

遠藤

瑠七

.....

1

【優秀賞】

水は還る

竜ヶ崎第一高等学校附属中学校三年

園田

桃子

.....

3

水とともに歴史を歩む

水戸市立笠原中学校

二年

大森

花音

.....

5

水への感謝

茨城大学教育学部附属中学校

一年

大高

ひろの

.....

7

安全な水を広めるために

水戸市立第四中学校

一年

関

琉惺

.....

9

【入選】

私たちを支える水

水戸市立第四中学校

三年

横山

明音

.....

11

人にとって大切な「水」

水戸市立第四中学校

二年

金原

愛実

.....

13

限りある水を大切に

水戸市立第四中学校

二年

小西

凜花

.....

15

私たちを支える水

水戸市立第四中学校

一年

宮林

凜音

.....

17

たくさんの笑顔のために

土浦日本大学中等教育学校

二年

二木

沙織

.....

19

「水の日」及び「水の週間」について

.....

第四十五回「全日本中学生水の作文コンクール」茨城県審査について

.....

第四十五回

茨城県優秀作品

(令和五年度)

最優秀賞

祖父のマンションと水

土浦日本大学中等教育学校

二年 遠藤 瑠七

わたしの祖父は大手精密機械会社での技術職を退職した後、山梨県山中湖村に小さな中古マンションを購入した。長年様々なカメラの開発業務に従事してきた祖父だが、定年を機会に元々カメラが好きで会社に就職したことを思い出し、大好きな富士山を一年中好きなタイミングに撮れるように、そのマンションを手に入れたらしい。その縁もあり、わたしは両親や妹と共にその富士山麓にある住まいを何度か訪れた。窓から見える山中湖の静かな水面に映る富士山は、時間と共に色を変えていく。その光景は、今も強く残っている。

東京の中心部で生まれ育った私にとって、山中湖での生活は様々な驚きの連続だった。第一に、何と

いっても水道から出てくる水の冷たさと美味しさだ。真夏でも水道から出てくる水が冷たいのだ。東京の水も十二分に美味しいのだが、そこで喉を通す水はまた違った味を持っていた。なぜこんなに水が美味しいのかを知らうと考え、村役場の水道課のホームページで確認した。そこには山中湖村の水道は全て地下水を使用していると書いてあった。富士山やその他近隣を囲む産地の土砂を経由し濾過され、豊富なミネラルを含むその水はいつも飲む水とは違う成分を含んでいるのが水にコクがある理由らしい。冷たい地下水で締められたうどんや、無添加にも関わらず、これでもかという程柔らかいパンのどちらもコクが感じられた。それぞれのお店に聞いたところ、おいしさの秘訣は、やはり水にあるとのお話だった。水とそれを取りかこむ山々による水源かん養は、その土地の名産物を生み出す大きな要素でもあったのだ。水自体が地域経済、ひいては社会生活にまで影響を与えるものと考えたことはなく、驚くと同時に、水の存在の大きさを感じたことを覚えている。私達は水に生かされているのだ。

一方で、祖父のマンションでの水の思い出は楽しいものばかりではなかった。特に冬期の水に関する思い出は辛いものであった。まず、冬にはマイナス20度を下回ることもあることから、たまにしかマンションを訪問しない我々家族は冬になると水道を落とす必要があった。訪問の都度、水道を再開するのは手間がかかることから、マンションに行くときは常にペットボトルの水を購入し、持って行った。お風呂も家に入ることは出来ないことから、近隣の村営温泉施設まで出かけて行った。トイレは都度マンションの共有トイレまで走って行った。こういった山中湖での冬の生活は非常に大変な部分もあったが、私達の日頃の生活の一つ一つにおいて、水がどれほど重要でなくてはならないものかを痛感させられた。

山中湖村での楽しい経験も、大変な記憶も、全てわたしにとっては大切な思い出だ。そしてその横にはいつも美しくて十分な水があった。世界にはその日その日の飲み水を手に入れるのも大変な国がある中、日本では必要な時にいつでも水を手に入れるこ

とが出来た。わたしが住んできた東京や千葉での水は、全て山中湖のような水源地域の人々のお陰といえる。その恩恵を受けている都会で生活する私達は、その水源が今後も持続出来るように行動を起こす義務があると思う。例えば、ふるさと納税のように、自分の居住地でお世話になっている水源地域の自治体に、感謝の意味を込めて個人が寄付を出来るような仕組みがあってもいいのではと思う。全国の小中学校で、水源地のダムの見学をすることも、水源の大切さを楽しみ体験として理解する上で非常に有効なのではと考える。私自身は、まずこの夏久しぶりに思い出の地、山中湖を家族で訪れ、水道から出る水をコップで思いっきり飲み干したいと思う。

優 秀 賞

水は還る

茨城県立竜ヶ崎第一高等学校附属中学校

三年 園 田 桃 子

私の通学路沿いには、牛久沼がある。幼い頃から何度も行っている、私にとって思い出が詰まった大切な場所だ。

橋の上から見た、日の出に照らされきらきらと輝く牛久沼は美しい。沼で釣りをしている人もよく見かける。沼を一望できる水辺公園の展望デッキは、人々の憩いの場だ。また、白鳥を間近で見ることができ、雛が誕生すると喜びの声が上がる。水の周りにはいつも人が集まっていて、水は人と人とを繋ぐ存在なのだと実感する。水には人を惹きつける力があるのだ。

水質汚濁の問題が頻繁に取り沙汰される中、ふと、牛久沼の水の状態が気にかかった。茨城県のホーム

ページには、牛久沼の汚濁負荷のグラフが示されている。水の汚濁の程度を表す指標であるCOD、全窒素、全リンのどの項目でも上位だったのが生活排水だ。生活排水とは、台所やトイレ、お風呂や洗濯など日常生活から出た水のことを指す。水が私達の生活を支えているからこそ、その割合も大きくなってしまうのだ。

生活排水は、地下にある下水道管を通過して下水処理場へ運ばれる。ここでそれぞれの役割を持つ槽を通過してゴミや汚れを取り除く。微生物が汚れを食べることを利用して、水を綺麗にしているようだ。そうして処理された水が川へと流される。

では、下水処理場で処理されてから川へ流されるから、何でも好き勝手に流してしまってもいいのかもしれない、決してそんなことはない。ゴミを流せば下水道管の詰まりの原因になるし、処理できる量にも限りがある。

「水を大切に使いましょう」という節水のスローガンは、きちんと守ってきたつもりだ。しかし、自分達が使ったあとの水がどうなるのか、ほとんど意

識していなかったことに気がついた。

また、人間の体のおよそ六割は水でできていると言われている。水は海や地上から蒸発して雲となり、雨や雪となって地上に降り、集まって川になって海へ流れ、私達が口にする水として還ってくるのだ。海や川の水が汚れた分だけ、自分や大切な家族の体も汚れていくのではないか。

水の一生は、人間が使って終わりではない。だからこそ、水は使う時だけでなく、使ったあとまで大切にしなければならないのだ。例えば、水切りネットを利用して、野菜の皮や種などを流さずに取る。お風呂場や洗面台に落ちやすい髪の毛も拾ってゴミ箱に捨てる。お皿についた油や汚れは洗う前に拭き取る。どれも些細な行動だが、継続すれば、牛久沼だけでなく他の川や湖の汚染も防ぐことができる。

水を大切に使う人の体を流れる水も、川に平気でゴミを捨てる人の体を流れる水も、一つの川になり、海になり循環している。水は還る場所を選ばない。だが私には、汚れた水は汚した人の元へ還り、綺麗な水は水を大切にする人の元へ還っていくように思

えるのだ。

足元にあるマンホールには、下水が流れているものもある。その水の色を想像したことはあるだろうか。すぐ横を流れる川の水が巡り巡って、いつか蛇口をひねったときに出てくるかもしれない。少し意識するだけで、歩き慣れたいつもの道にも、巡る水の音が聞こえてくるようだ。人間も大きな水の流れる一部だと気づき行動する人が増えれば、きっと私達を取り巻く水は美しく澄んだものになっていくだろう。

今日も通学路からは、いつもと同じ牛久沼の風景が見える。今日の牛久沼は、いつもよりもっと輝いて見えた。

優秀賞

水とともに歴史を歩む

水戸市立笠原中学校

二年 大森 花音

私の家の近所には、逆川緑地という公園があり、その緑地を流れる川が逆川だ。逆川は水戸の中心市街地にあり、水戸市を代表する自然の一つである千波湖へと南北に流れる川である。そのような逆川の流れる逆川緑地には、当時の笠原水道の水路の樋を復元した模型をはじめとして、笠原水道の水に実際に触れることのできる「竜頭共用栓」など、笠原水道の歴史を視覚的に理解できる仕掛けが数多くある。私は幼い頃から家族とともにこの逆川緑地を散歩などでよく訪れ、親しんできた。多種多様な動植物の生存するこの地で、豊かな自然や様々な生き物と触れ合うことのできる環境を支えているのは、水資源によるものだろう。逆川を身近な自然に感じてい

た私だが、思えば、笠原水道が造られた想いについて、あまり知らなかった。そこで私は、笠原水道の歴史について調べてみた。

水戸の歴史と聞いて、誰もが真っ先に思い浮かべると言っても過言ではないほど水戸市とゆかりの深い徳川家だが、笠原水道も例に漏れず、徳川家の歴史と深いつながりをもっている。笠原水道は、水戸黄門のモデルとなった徳川光圀公によって江戸時代に整備されたそう。日本では十八番目に古い上水道で茨城県の県指定文化財にもなっている。現在水戸市には下市という地域があるが、当時の下市だった下町という地区は、低湿地であったものの水質が悪く、飲用水の確保に苦労していた。そのような、水の便の良くない下町の給水難を救おうと造られたのが、笠原水道である。この工事には、五百五十四両の費用がかけられ、二万五千人余りの人々が携わったそう。一年の工事を経て造られた、全長約十kmの笠原水道は、上水に恵まれなかった下町の人々の生活用水として大いに活用され生活に欠かせないものとなったそう。

このように、水という資源は元来からとても貴重なものとして大切にされてきた。そのことは現在も変わることなく、水は守るべき自然の恵みなのだ。

しかし、今日の日本の現状はどうだろうか。

私たちは、日常生活のあらゆる場面で水を使って生きている。一日の生活を思い返すと、飲み水や料理に飲料水として使われるのはもちろん、洗濯やトイレ、手や顔を洗ったり歯を磨いたりするときなど、水無しには生活できないように思う。

日本では、先人たちの努力による技術の進歩のおかげで、蛇口をひねればすぐにきれいで安全な水が得られ、水を手に入れるためには何不自由なく生活することができている。そのため、水の大切さを見失いがちだ。

そんな日本では最近、数々の水問題が起こっており、特に身近なものは水の使い過ぎによる、環境への負担である。日本人の一人あたりの水の使用量は、一日あたり約二百三十五ℓで、これは世界平均の約二倍にもなるそう。水が届けられるには、浄水場や下水処理場など、様々な場でエネルギーが使われ

ているが、その過程で二酸化炭素が排出されるため、温室効果ガスとして地球温暖化を促進させることにつながってしまう。水を使いすぎることは、地球上の生物の健康や命を脅かす原因となっているのだ。

このような問題を改善するためには、一人一人が水の重要性を理解し、高い意識をもって行動することが、解決へと導く糸口になるのではないだろうか。私は今、学校での掃除当番で水道を担当している。毎日の掃除の中で、使っていないときにはこまめに蛇口を閉めるなど、身近な生活の中での意識改革をすることが肝要だろう。そして、古くから重んじて受け継がれて来た「水」という貴重な資源を、これからも大切に守っていきたい。

優 秀 賞

水への感謝

茨城大学教育学部附属中学校

一年 大 高 ひ ろ の

皆さんが毎日使っている水は、どれだけ貴重なものか知っていますか。水を大切に作る工夫をしますか。

世界には、十四億立方キロメートルの水がありませんが、私たちが飲める水はそのうちの二・五%しかありません。また、きれいな水があっても、全世界で確保することは簡単ではありません。そこで、きれいな水を利用できる私たちは水を大切にし、感謝しながら使う必要があると思います。

水道からきれいで、安全な水が出てくることは、日本に住む私たちにとっては当たり前のことだと思っている人が多いのではないのでしょうか。

私の従妹はマレーシアに住んでいます。従妹が日

本に帰ってきた時、私が水道の水を飲んでいたらとても驚いていました。私が従妹に水道の水は安全だということ伝えたら、嬉しそうに水を飲み始めました。水道の水を飲むことは従妹にとって貴重なことでした。私はその時に、改めて水道水を飲むことができない国があると実感しました。

従妹は水道水を飲むことができないため、水を買っていますが、世界には安全な水さえも手に入れることができない人たちが六億人以上もいます。このような人たちは、池や川、湖、整備されていない井戸などのきれいとは言いがたい水を汲み、飲んでいきます。そのうえ、池や川などの水源はとても遠く、炎天下の砂漠を一日中歩いてもわずかな水しか手に入りません。

私は小学生の頃に、貧しい国に水道を設置し、安全な水を使ってもらおうという内容のテレビを見ました。日本の人々が海外に渡り、貧しい国に水道を設置し、毎日水を汲んでいた子どもたちが笑顔で水道の水を使っていました。しかし、半年後には水道から茶色い水が出てくるようになりました。水道が設

置された後、管理が行われず、水道のサビが水と混ざって出てくるようになってしまったのです。管理されていない水道の水を飲んだ子どもは病気にかかりました。世界の水問題は世界が団結し、全世界で解決する他ありません。

では、きれいで安全な水を利用できる私たちは、何をすればよいのでしょうか。

私たち一人ひとりが水を大切にするには、水を上手に使うことが大切だと思います。みなさんは、「節水」という言葉を知っていますよね。近年では、節水型機器の需要が高まっており、昔よりも簡単に節水できるようになりました。また、風呂の残り湯で洗濯をしたり、ものを洗うときはため洗いをしたりと、身の回りで節水ができる機会はたくさんあります。私は、節水だけでなく水を汚さないことも水を大切にする工夫だと考えます。例えば、料理で使った油を紙等で拭き、油を流さないことや、調理くずをくずとりネットで回収することなどです。水を大切にするには、少し手間もかかりますが、多くの生物や資源を傷つけることなく、水に感謝の気持ち

を表すことができます。

水はとても価値のある貴重な資源です。その大切な資源が手に入らない人たちがいる中で、私たちは水をふんだんに使ってしまうています。水を使うことのできる私たちが水を大切にしなければ、解決する問題も解決しません。そこで、まずは、生活に欠かせない水に感謝の心を持ち、大切にする工夫をしましょう。感謝は人に対するだけのものではないので、水への感謝は水を大切にする第一歩です。水への感謝することから始めませんか。

優 秀 賞

安全な水を広げるために

水戸市立第四中学校

一年 関 琉 惺

僕は小学生の時に、逆川エコクラブに所属していて、自然のこと・魚・鳥・虫について色々なことを学んでいました。その中で、魚の住みよい水質について興味を持ち、茨城県で唯一「ラムサール条約」に登録されている涸沼に住んでいる水鳥や涸沼に生息している魚について学び、ビオトープ作りをしました。そして、子供ネイチャーガイドの資格を取りました。ビオトープとは、水鳥や魚達が生きやすいように草を植える作業のことです。クラブの先生に教わりながら、みんな泥だらけになりながらの作業は大変でしたが、楽しく良い経験になりました。

ラムサール条約とは、一九七一年にイランのラムサールで開催された「湿地及び水鳥の保全のための

国際会議」において「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」が採択された条約のことです。涸沼は茨城県・鉾田市・大洗町・茨城県が協力して「ラムサール条約」の登録をすることができました。僕は、涸沼で毎年、ハゼ釣りをしているのですが、年々釣りのできる期間が短くなっている、温暖化の影響なのか、水質の悪化なのか心配になります。僕は、涸沼の子供ネイチャーガイドの資格を持っていますが、もっと勉強をして観光客の方に説明をできる大人のネイチャーガイドの資格も取りたいと思っています。そのためには、もっと生き物について勉強が必要になります。

日本は水の豊富な国ですが、残念ながら「海・湖・川」も汚れている場所がとても多いです。それでも、日本の水道から出てくる水はとてもきれいで世界一美味しい水です。世界では、水道のない国もたくさんあります。水道もなく、雨水だけで生活している国もたくさんあります。アフリカ諸国では、整備されていない池や川・湖から水を汲むために学校へ通えない子供達がたくさんいるそうです。一日

に八時間以上を水汲みに必要とする子供達が三百三十万人もいるとニュースで見ました。大人でもつらい作業です。きっと僕よりも小さい子供達が勉強することもできず生活しているのです。それでも水がなくては生きていけません。家族のため、自分のために水を汲まなければいけないのは悲しいです。またドイツは、年間降水量がとも少なく、雨水利用の先進国だそうです。二〇〇五年に雨水規格を導入しました。十年かけて作成された雨水規格は「計画・施工・運用・保守」「フィルター」「雨水貯留槽」「制御と監視のための装置」で構成されていて、EU規格や国際規格にしようとしているそうです。他にもベルギーでは住宅での雨水の活用や一時貯留を定めていたり、イギリスでは雨水の浸透や保水可能な排水システムの開発推進をしていたりするそうです。日本でも、二〇一四年に雨水利用を推進する「水循環基本法」と「雨水利用推進法」の二つの法律ができました。年々増えている集中豪雨の時に地下タンクに雨水を貯水するシステムなどが作られているそうです。貯水した雨水は、災害時のトイレの

流し水に使えたり、火災が発生した時の備えにしているそうです。温暖化によって大雨が増えているので、そのようなシステムができてるのは心強いと思います。

日本のように蛇口をひねればきれいで安全な水が出てくる幸せを世界中の人に体験してほしいです。近い未来、日本から貯水技術やろ過技術を伝えて、きれいで安心・安全な水を使えたらと思います。八時間の水汲み作業ではなく、勉強することができる子が増えますように願います。

入 選

私たちを支える水

水戸市立第四中学校

三年 横山 明 音

私たちは生活をしている中で、いつも水と関わっています。水がないと、私たちは生きていくことができません。例えば、風呂、洗濯、トイレ、飲み水などに水が必要です。私たちの生活に深く関わる水について考えてみました。

私は、先日サバイバル系のドラマを観ていたとき、「水がないと、あと数日で死ぬ！」という、主人公のセリフを聞いて、衝撃を受けました。そこから、人間が生きていくために必要な水について気になり、調べてみました。成人の体の約六十パーセントは、水分でつくられていて、私たちは一日に、約二・五リットルの水を排出しているため、その分摂取しなければならぬそうです。しかし、体内の化学反応

でつくられる水分や、食べ物に含まれている水分があるため、全てを飲み水で摂取するわけではないようです。ちなみに、ご飯一杯は九十ミリリットル、トマト一個は百五十ミリリットル、卵一個は四十五ミリリットルほどの水分が含まれているそうです。普段の生活で、あまり意識したことはありませんでしたが、二リットルのペットボトルの水を、毎日、体から出して入れているのは、大変だなと思いました。水を飲むと、体内の循環が良くなる、とよく言われていますが、その理由が分かったような気がします。

また、風呂や洗濯、トイレなどに使う水も、私たちが生きていくために必要です。調べてみたところ、日本人は一日に、一人あたり二百から三百リットルの生活用水を使っているそうです。私の家の水道使用水量のお知らせを確認すると、三人家族で一日に平均約千二百リットルの水を使っていると分かりました。毎日、こんなに大量の水を使っていると知らなかったのです、とても驚きました。

中学校二年生の国語の授業では、太宰治の「走れ

メロス」を学習しました。「走れメロス」では、疲れきって倒れたメロスが、水を飲んで再び走り出す、というシーンがあります。私は、その場面を読んで「水ってすごいな」と思いました。そこで、体内での水のはたらきについて調べてみました。水は、栄養分や老廃物を血液中に溶かして運んだり、体温を調節する役割があるそうです。また、水には鎮静作用があるため、飲むと、リラックスできるそうです。私たちは、水を飲むことで、元気に生活できているんだな、と思いました。そして、メロスには水の鎮静作用が効いたのかなと思います。

日本には、多くのことわざや慣用語があります。その中で、水に関するものが多くあることに気づきました。例えば、「寝耳に水」「水を得た魚」「水を差す」「覆水盆に返らず」などです。これらの言葉は、私たちが生まれるずっと昔から使われています。そこから、日本人は長い間、水と共に生きてきていたんだな、と感ずることが出来ます。また、日本だけでなく、海外にも同じような言葉があるのか気になり、調べてみると「覆水盆に返らず」と同じ意味

の英語のことわざを見つけました。それは「It is no use crying over spilt milk (こぼれたミルクを嘆いても仕方がない)」です。「水」と「ミルク」で、こぼれるものが違っていて、日本では昔から、水が身近な存在だったんだなと思いました。

私たちは、いつもそばにある水のありがたさをつい忘れてしまいがちだと思います。日本人は一日に一人平均二、三百リットルの水を使っていますが、工夫をすれば二百リットル以下の水で生活できるそうです。私も、気づかないうちに水を無駄にしていることがあると思います。小さなことから改善して、節水してみたいです。水について考えてみて水は色々な形で私たちの暮らしを支えているのだと気づくことが出来ました。これからも、水の大切さを忘れずに生活していきたいです。

入 選

人にとって大切な「水」

水戸市立第四中学校

二年 金 原 愛 実

小学校六年生の時、理科の授業で「水の循環」について勉強した。「水の循環」とは、海から蒸発した水が雲となり、雨が降り、雨水が川や地下を流れ、再び海に戻ることをいう。

毎日使う水の主源について調べてみた。川から取り入れた水を、飲み水として使えるように浄水場できれいになっている。きれいになった水は、水道水となり、配水場でためられ、そこから各家庭に届けられるしくみになっていることが分かった。ここで疑問がわいた。なぜ水は蛇口をひねると出てくるのか。それは、浄水場からポンプで圧力をかけることで、水が送られてくることだった。ちなみに、ポンプは電気で動かしているため、地震などで停電した時は

水も出てこなくなる。水に電気が関係しているとは意外だった。地下に水道管がはりめぐらされていることすら、気づかなかった。当たり前前に水を使えるようになるまで、どれだけの苦労があったかと思うと、もっと大切に水を利用しなければいけない。

次に、「水不足問題」に目を向けてみた。日本では、蛇口をひねれば出てくる水だが、発展途上国や乾燥地帯では水不足の状態にある。上下水道の設備が整っていないことから、人々は水を手に入れるために、遠く離れた水源地まで、水をくみに行かなければならない。日本のように、安価で安心安全な水が簡単に手に入れられるわけではないため、結局不衛生な水を摂取することになってしまう。このことは、小さな子供達が病気になる、命を落とす可能性が高まることにつながる。しかし、水を飲まなければ、私達は生きていられない。こういった恵まれない国に生きる子供達を救うために、私達ができることは寄付をすることや、関心をもつことだと思う。普段の生活でできることは、調理、洗濯、トイレ、お風呂の水をむだにしない、再利用することだ。

自宅から近いところに逆川緑地があり、そこに「笠原水源」がある。ここから出ている水はわき水で、現在も水戸市の水道水源地として使われており、川の水を使った水道水とは違って軟水の水道水なので、おいしい水なので私も飲んでみたいと思う。このわき水に目をつけた人がいる。徳川光圀である。今から約千四百年前に、水戸の城下町は水の便が悪く、特に下市地区は飲み水に困っていたため、光圀は笠原水源から全長約十キロメートルの笠原水道を作ったそうだ。この水道は、昭和初期まで使われていて、当時の人達の知恵と努力には頭が下がる思いである。

人間の体の七十パーセントは、水分でできている。水分を失ってしまえば、人は死んでしまう。絶対になくてはならないということが、改めて分かった。これからは、日々の生活において水の利用方法を考え直し、地球温暖化の原因となる、二酸化炭素の排出をおさえるなど、全ての人が少しずつでもいいので意識することが大切だと思う。

入 選

限りある水を大切に

水戸市立第四中学校

二年 小 西 凜 花

私達の生活において、絶対に欠かすことの出来ない水。食事や洗濯、入浴、トイレなど生活のありとあらゆる所で必要とされる。その大切な水を、限りある水として大切に使用しようと昨年の作文で書いた。それから一年、私は今も水を大切に使用したいと思います。がら、日々過ごしている。

私の生活の中で変わった事は、入浴中に身体や顔を洗っている間はシャワーを一度止める事、水筒の水を飲み切れる量にする事、お手伝いで洗い物をする時、洗っている間は水を止め、流す時も水を強く出しすぎない事である。ちよつとした事かもしれないけれど、日々続けることで節水につながっているのではないかと思う。そんな私の事を見て、母は

「凜、えらいね」とほめてくれた。ちよつとはずかしいような、嬉しいような、そんな気持ちになった。母も私のことを見て、一緒に節水について考えてくれた。トイレを流す時は出来るだけ一回にする事、料理をする時、みそ汁があまりないように、水の量を測る事、お風呂の湯を浴そういっぱいにためるのでなく、七分目位にする事など、出来る事を考え、少しずつ生活に取り入れた。ちよつとした事かもしれないけれど、意識する事で、水の使い方に変化があった。

しかし、世界ではどうだろう。もう一度調べてみた。すると、排泄物や化学物質などに汚染されていない「安全な水」を確保できずに困っている人がたくさんいるという。このままでは、水不足により、命を落としてしまう人達が増えてしまうという。その事実にも、言葉が出なかった。私達は、いつでも安全な水がじゃ口から出てくる。しかし世界には、水が原因で病気になったり、水不足で命を落としてしまう人もいる。同じ時代を生きているのに、そのような事が起きていることに驚いてしまった。

アフリカでの水不足についての記事を見た。安全な水を使える場所は少なく、不衛生で汚れた水を使わなければいけないという。水を汲みに行くのは子供の役割。一日八時間以上を水汲みに行く必要がある子供もいるという。家族分の水を確保するため、水汲み場と家を何往復もするため、かなりの重労働である。それを私と同じ子供達がやっているとすると、なんだか心が苦しくなった。私は、朝起きると温かいご飯を食べ、水筒を持って学校に行き、勉強や友達と会話したり、遊んだりして家に帰る。帰ってから、温かいお風呂に入り、おいしいご飯を食べて寝る。それを当たり前として毎日繰り返している。しかし、アフリカの子供達はどうかだろう。八時間も水汲みに費やし、その茶色くにごった水を飲んだり、体を洗ったりして過ごしているという。それでは病気になるのも分かる。だが、そうしないと生きていけない状況なのだろう。心が痛む現状である。私に何が出来るだろう。寄付は子供の私にはまだ出来ない。でも、今まで通り、水の使い方や大切さについては考えていきたい。母と相談し、もう少し

自分が出来る節水について取り組んでいきたい。今の生活が当たり前でなく、とてもありがたいこと、そして世の中には、十分な水が得られず、苦しんでいる子供達がたくさんいることを常に思い、限りある水を大切にしていきたいと思う。そして、自分が大きくなって働き始めたら、困っている人達に「安全な水」が届くよう、少しでも寄付していきたい。世の中の子供達みんなが、いつでも「安全な水」を口に出れる日が早く来ることを願う。

入 選

私たちを支える水

水戸市立第四中学校

一年 宮 林 凜 音

私が「水」と聞いて思いうかべることは、海の水です。私たちの住む地球は、「水のわく星」と言われていますが、その名の通り、地球の表面の約七十パーセントを海がしめています。私は、海が私たちの生活になくてはならないものだと思います。

日本は島国なので、海か空を通らないと、外国と行き来できません。私たちが生活に必要なものの原料は、どのように運ぶと思えますか。ガソリンやプラスチックを作るための原油、電気を作るための石炭や天然ガス、その他鉄などの金属、麦などの食料品は、重かったり、かさが多かったりします。これでは、空を通る飛行機では運べません。なので、海を通る船で運んでいます。だから、輸入した原料を

加工する工業地帯は海ぞいに集中しています。外国から船で原料を輸入して、製品を作り、場合によっては輸出する、という工業がさかんです。

私たちの生活はもちろん、日本の産業を海が支えています。海が関わる産業は他にもあります。それは、漁業です。スーパーに並ぶ魚介類は、日本でもれたものがあります。食の面でも海や海産資源は、私たちの生活になくてはならないものです。

しかし、海産資源は年々減少していると言われていきます。あたり前にある資源だからたくさん使うのではなく、大切に使うべきだと思います。もし、海産資源がなくなってしまうえば、食卓にのぼる魚が消えてしまいます。将来のことも考えて、資源を使いすぎないようにしなければなりません。

海以外にも、私たちの生活を支えている水があります。それは、川の水です。川の水は淡水、真水です。地球上の水の大部分は海の水で、地球の水の中のごくわずかな淡水を飲んだり、農業に使ったりしているのです。川の水も私たちの生活を支えています。弥生時代には、川の水はうばい合うほど大切に、

なくてはならないものになりました。それは、中国から稲作が伝わったことで、米のとれ高に關係する水が重要になったからです。水を飲むだけではなく、稲作に水を使うことが生きるために必要になりました。

平安京周辺の地図を見ると、平安京の中には鴨川、近くには桂川があります。後の時代に日本の中心部となった大阪城の近くには安治川や木津川、江戸城の近くには隅田川があります。それぞれの場所の近くには川があります。私は、これらを生活用水として利用したり、農業に使ったり、税などの物を運ぶことに使っていたのではないかと思えます。現代では、水道ができて、ごく簡単に水が使えます。その水の元をたどっていくと、川の水になります。川の水がじょう水場できれいにされて、水道を通り、私たちの元にやってくるのです。

今も、昔も、川の水は生活用水、農業用水、物や人の運送などに利用されています。これらのどの使用方法でも、私たちの生活を支えています。

このように、川の水は様々な面でわたしたちの生

活を支えています。自分が直接的に関わっていないように見えても、元をたどれば自分につながっているのです。水をあたり前にたくさん使えることは貴重なことです。一つの資源である水は一人一人が生活に必要なものです。だから、私たちの生活と水が深く関わっているから、水を大切に使わなくてはならないのです。

入 選

たくさんの笑顔のために

土浦日本大学中等教育学校

二年 二 木 沙 織

私は、小学校四年生の夏休みに、「すごいね！みんなの通学路」という本を読み、読者感想文を書いたことがあった。その本の中で、水を確保するのは子供や女性の仕事のため一日何時間も歩いて、水を汲んでくるという大変な思いをしている子供や女性がたくさんいるということを知った。その時、そんなことは私にはできないと思ったことを覚えている。また、それに時間を費やしてしまうので私と同じ中学生や小学生なのに、学校に通えないということも初めて知り、とても強い衝撃を受けた。この本は、それまで当たり前だと思っていた私の身の回りの水に対して関心を持つきっかけになった。

私たちは最近、SDGsという言葉をよく耳にす

る。その中でも目標6「安全できれいな水とトイレを世界中に」は、私たちが生きるのに欠かせない水を世界中すべての人が使えるようにしようという目標である。詳細を調べたところ、私が知らないことがたくさんあった。その一部を紹介する。

人間の体の七十％は水でできている。しかし、地球上のすべての水のうち私たちが利用できる水は、たったの0・01％。この水で七十七億人が生活しているのである。しかし、今、世界では十人に三人がきれいな水を手に入れられていない。汚れた水は、自然環境や健康にも影響する。不衛生な水は、病気にかかったり、感染症を引き起こす原因にもなった。それは、有害な物質が水の中に含まれているからである。また、冒頭でも挙げたように、水を確保するのは、子どもや女性の役目で、確保するのに何時間も歩いて取りに行く。それに、一度に持つてくることができる水には限りがあるのでどうしても何度も往復するしかなくなってしまう、一日を水の確保に費やすしかない、一方、日本の水は、蛇口をひねればいつでもきれいな水が出てくる。しかし、

そのような国は数えられるくらいしかない。日本の人々は水を無駄なく使うために知恵と工夫をたくさん張り巡らせて、モノづくりをしている。例えば、水を無駄なく使う棚田、地元の水で作るお酒や織物、水のエネルギーを電気に変えるダムなどがある。このように、清潔な水が手に入れば、町の発展にもつながる可能性はある。

私は地球上のすべての水のうち0・01%の水しか利用できないことに驚いた。さらに、十人に三人がきれいな水を手に入れられないことにも驚いた。今回水について調べたことにより、日本に住んでいたら分からない水不足も、世界では、多くの人が水不足で命を落としていたり、水不足に苦しんでいたりにしていることが分かり、現代の水不足はとても深刻なのだと改めて理解することができた。

私が住んでいる河内町は、おいしいお米やレンコンが特産物だ。お米もレンコンも作る過程ではたくさんのおいしい水を利用している。たくさんのおいしい農作物が作られるには、たくさんのおいしい水が必要だ。私たちの生活には水が必要で、安全な水があるから、

幸せな笑顔がたくさん広がっていると考える。私はとても幸せなのだ、今感じている。

安全な水が不足していることを解消するために、私たちができることは、水を節約して生活すること、水不足で困っている人たちがいるということに常に考え、生活することだと思う。さらに、水不足には、地球温暖化も影響している。だから、地球温暖化を止められるように努力することも苦しむ人をこれ以上増やさないことの第一歩だと考える。

私は、これまでもできるだけ水を節約するように心がけていたが、世界中には水不足で苦しんでいる人がたくさんいることを意識して、生活していきたくて思う。そして、世界中に笑顔がたくさん広がることを、私は願っている。

「水の日」及び「水の週間」について

昭和52年5月31日

閣議了解

水資源の有限性、水の貴重さ及び水資源開発の重要性について国民の関心を高め、理解を深めるため「水の日」を設ける。

「水の日」は毎年8月1日とし、この日を初日とする一週間を「水の週間」として、この週間において、ポスターの掲示、講演会の開催等の行事を全国的に実施するものとする。

上記の行事は、地方公共団体その他関係団体の緊密な協力を得て行うものとする。

「水の日」及び「水の週間」制定の理由

わが国の水需要は、生活水準の向上、経済の進展等に伴って近年著しく増大してきたが、一方水資源の開発は次第に困難になっており、渇水時には水不足が生ずることが予想される状況となっている。

このような状況にかんがみ、毎年8月1日を「水の日」とし、この日を初日とする一週間を「水の週間」として、この週間において、水資源の有限性、水の貴重さ及び水資源開発の重要性に対する関心を高め、理解を深めるための諸行事を行うことによってわが国の水問題の解決をはかり、もって国民経済の成長と国民生活の向上に寄与することといたしたい。

なお、諸行事を行うためには、年間を通じて水の使用量が多く、水について関心が高まっている8月上旬が適当であるので、その初日である8月1日を「水の日」とし、この日を初日とする一週間を「水の週間」とするものである。

第45回「全日本中学生水の作文コンクール」茨城県審査について

1 募集要領

(1) 趣 旨

「水の日」及び「水の週間」の行事の一環として、次代を担う中学生を対象とした作文コンクールを実施することにより、広く水に対する関心を高め、理解を深める。

(2) テ ー マ

水について考える（題名は自由）

(3) 対 象

令和5年度に県内中学校、中等教育学校1～3年次及び義務教育学校7～9年次に在学中の者

(4) 応募締切

令和5年5月8日（月）

(5) 原稿枚数

400字詰原稿用紙4枚以内

2 応募状況

(1) 応募総数

292編

学年別 1年 47編 2年 209編 3年 36編

(2) 応募校

9校

茨城大学教育学部附属中学校、竜ヶ崎第一高等学校附属中学校、鹿島市立鹿野中学校、つくば市立竹園東中学校、水戸市立第四中学校、水戸市立笠原中学校、太子町立太子中学校、桜川市立岩瀬東中学校、土浦日本大学中等教育学校

3 審 査

(1) 審査方法

予備審査を通過した作品について、茨城県審査会（令和5年5月24日実施）で審査を行い、最優秀賞1編、優秀賞4編、入選5編及び学校奨励賞1校を選定した。（学校奨励賞は水戸市立笠原中学校）

また、入賞した上位5作品について、国土交通省で行われる中央審査に推薦することも併せて決定した。

(2) 審査基準

① 優秀作品

テーマ「水について考える」にふさわしく、日常の生活体験や学習を通じて得られた内容で、次の基準を満たすもの。

- ・水の貴重さ、水資源開発の重要性などが適切にとらえられていること
- ・将来の夢、提案等が中学生らしくまとめられていること
- ・抽象的、観念的なものでないこと（地域性に触れている、実体験がいきいきと描かれている等）
- ・字句の正確さや、文章の構成がよくできていること

② 学校奨励賞

当コンクールに積極的に参加していること

(3) 審査委員

委員長	阿部重典	((株)茨城放送代表取締役社長)
委員	斎藤敦	((株)茨城新聞社編集局長)
〃	谷島竜太郎	(茨城県教育庁学校教育部義務教育課指導主事)
〃	栗林俊一	(茨城県土木部災害・防災対策監兼河川課長)
〃	堤谷聡嗣	(茨城県政策企画部水政課長)

4 表彰

(1) 表彰式

令和5年7月28日(金)

(2) 賞及び副賞

最優秀賞(茨城県知事賞)	1名	賞状、副賞(図書券)
優秀賞(茨城県知事賞)	4名	〃
入選(茨城県知事賞)	5名	〃
学校奨励賞(茨城県知事賞)	1校	賞状